

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401135		
法人名	有限会社 ふれあい松川		
事業所名	なごみの園・菊水		
所在地	玉名郡和水町長小田334番地		
自己評価作成日	平成25年1月	評価結果市町村受理日	25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設敷地内に農園を作っており、入居者の方と一緒に作って、収穫して、それをその日の食材として皆さんで頂いています。ご近所の方も畑を耕して下さったりと、地域の方とも一緒に交流しながら野菜などを作っています。また、小学校が隣にあることで、小学生との交流会もあり皆さん喜ばれています。施設周辺は田んぼや自然が多く、四季折々の花や田んぼの風景が変わるので、散歩のときなど季節を感じるができます。併設しているデイサービスや有料老人ホームの方々との交流も図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設されたホームは、経年による高齢化・重度化傾向(平均年齢90歳、介護度3.3)という現状にあり、ハード・ソフト両面から理念である“居心地よい環境”作りに努め、ゆっくり穏やかな生活の中に機能低下防止への取り組みや、職員の寄り添いのケアは発語を引き出したり、ターミナル期にある入居者にも2名体制での入浴支援等介護力を生かしたケアに取り組んでいる。職員同士の助け合いと家族の協力・訪問看護師等との強固な連携により「他の施設よりホームで」との家族の思いに応えた献身的な介護姿勢を高く評価したい。開設時よりの地域の中での基盤作りは確立し、入居者の入れ替わりも少ない状況の中で“瞬間”を視点にした職員のケア姿勢は入居者の労いや感謝の言葉として表れている。法人として地域ニーズに応え、新たな有料老人ホーム増設はこの地の高齢者福祉の拠点とします期待される。近隣住民との関係構築は災害対策時協力の申し出に繋がる等、運営推進会議の成果が表れたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人のペースに合わせて、時には地域の方と交流し、和んだ雰囲気作りを心がけている。また、毎朝職場の教養を読み、それを日々意識付けし、実践に繋げている。	法人理念である「一人ひとりを大切にしてい一日一日を楽しく過ごして 共に自分の居場所を作りましょう」を掲げ、ホームとして“一人ひとりのペースを大切に家族と一緒に！”を目標に唱和による意識向上に努めている。また、問題発生時等の立ち返る原点としており、入居者のみならず職員同士の居場所も視点に置き、ともに“和”を大切にしながら日常に理念の実践であることが表出し、温かいホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にバラ園、コスモス畑等があり、季節ごとに四季折々の花々を見ることができる。また、地域の方より野菜や果物を頂いたり、GHの畑を耕して頂いたり、作り方を教えて頂いたりして交流を図っている。	地域社会の中での生活基盤は確立しており、ホーム用に休憩場所を作ってください近隣のバラ園や散歩時に立ち寄る近隣住民、シルバーボランティアの訪問時や小学校に隣接する立地条件を生かし学習発表会へ招待されたり、グラウンドゴルフに訪れる地域住民との交流等多岐に亘っている。ホームの畑作りの手伝いや野菜のおすそ分け等もあり、入居者とともに神社掃除を自主的に行う等ホーム側も地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や研修に来られる方にどのような場所であり、どのような対応をしているのか、説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2カ月に開催して、ご家族・民生委員さん・役場・福祉事業所・他施設の方にご参加頂き、活動状況の実施を報告して、その都度ご意見を頂いている。それを職員間で話し合っている。	行政や社協、校区の全区長・老人会・民生委員・家族や近くのグループホーム職員と多彩なメンバーにより定期的に開催する運営推進会議は、防災対策の検討事項を区の会議に挙げてもらう等効果的な会議となっている。また、バイクングを組み込み、食事の現状確認は認知症ケア啓発の一環として活かされ、終了後の雑談に中でも防災問題や有料ホーム等質問もあり、その中からも課題を見出しサービス向上に反映させている。	夜間対策の一環として地域との連絡体制の申し出等もある等参加委員はホームに好意的であることが窺われる。今後も、事前に具体的な課題を提示し、委員との意見交換により更なるケア向上に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席して頂いているので、その時に質問したり意見交換している。	運営推進会議案内の持ち届けや介護認定更新に役場に出向き、ホームの現状発信や相談を行っている。地域包括支援センターから利用者状況や空き状況の問い合わせ、町立病院からの相談等もあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、1人1人が拘束の内容を把握し、拘束をしないケアを職員間で話し合っている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、勉強会を開催しており、拘束の弊害を正しく認識している。ホーム長及び管理者は職員の声かけ等全体を見ながら指導している。また、定例会時に報道等の事例を介して検討し、行動をいち早く把握することを申し合わせ、特に新人スタッフには利用者個々の状況を把握することを指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、全職員の理解に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中に取り入れ、また個人の必要性の有無も考えながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を要し、納得して頂くまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際や運営推進会議の際に現状報告し、意見を求め、それを職員間で話し合い、今後の介護に反映できるようにしている。	玄関に意見箱を設置しているが利用は無く、運営推進会議や面会時に状況を報告しながら、意見や要望を引き出し、ケアサービスに反映させており、話しやすい雰囲気を作っている。家族会は無いが、“ふれあい松川”の祭りには家族も見守りとして協力されたり、誕生会時等に訪問されている。また、入居者個別の状況を毎月発信し家族との情報の共有化が図られており、家族からは感謝の言葉が多く出されている。	全家族が集まる機会は少ないとのことであり、訪問に繋ぐことを課題として毎月コンタクトを取っている。今後も、ホーム独自のアンケート調査や訪問時に家族の思いを推察する等検討され、サービスに反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会にて意見を聞く場の提供を行っている。代表者は毎朝訪問し、職員の意見を聞いている。また、代表者と管理者等は月2回の会議を通して意見交換を行っている。	管理者は日々の職員とのコミュニケーションの中で、意見や提案を聞き取り、ホーム長会議(月2回)で人事・予算や職員の意見等を話し合い、法人としての体制に反映させている。代表も毎朝ホームに訪れ入居者の現状確認や職員との意見交換を行っている。職員は認知症状況や季節により、転倒予防に向けた共有空間のレイアウト変更等観察力を持ったケアに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の代表者と責任者の会議にて勤務状況を報告しており、年に1回は職員個人の実績を考慮して功労者を表彰している。必要に応じて個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に可能な限り参加できるようにしており、月に1回はホーム内での勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市部GH連絡協議会の集まりや、他のGHの運営推進会議の参加し、そこで交流ができ、意見交換も行えている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、表情や行動を観察し、心の奥に秘めている気持ちを見いだせるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み・戸惑い・不安等をしっかり聞いて受け止め、要望により近いサービスが提供できるように支援しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは話をよく聞いて、本人と家族が何に困っておられるのか考え、必要と考えられるサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんは人生の先輩であり、今までの経験などを尋ねて、それを共に生活に役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回本人さんの状況報告を郵送にて行っている。家族の面会を大切にして、誕生会など一緒に参加して頂き、共にお祝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの方々の訪問や親戚の馴染みの方々の面会が時々あっている。入所されてできた馴染みの場所には定期的に散歩など行っている。	家族や親類の訪問や、地域住民の迎えにより慰霊祭に参加する方、散歩時の歓談により同級生と判明し家族にコンタクトを取ってもらい訪問につないだり、盆・正月に自宅で過ごす方、神社参拝等馴染みの関係継続に努力している。また、入居歴も長く、入居者同士や職員との関係を馴染みの関係にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や洗濯物を畳んだりと共に支え助け合い、またレクリエーション・ドライブ・散歩など皆と楽しく過ごせる時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転移されたホームや施設へ面会へ行ったり、ご近所のご家族とはずっと交流を持ち、時々来園されその方の話をしてくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の言葉の中から、本人の思いや何をしたいのかを把握し、できるだけ本人の希望に添えるように努力している。	日々職員は入居者に寄り添い、よく会話を交わし、その中の昔話などから推察する等その瞬間の思いに対応している。発語困難者に職員の声かけが発語を引き出した事例もある。またアイコンタクトによる把握や、残食をもって嗜好を把握したり、選択肢を投げかけ本人本位になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族の話の中から生活歴を少しでも多く把握し、その人の性格・趣味・仕事等を理解したうえで、その方の介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々の出来事や変化を記録記入し、全スタッフが情報共有し把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より意見を聞いて、職員間では1回/月の定例会で意見交換を行い、それも参考にして介護計画に繋げている。必要時、担当者会議を開いているが、回数は少ない。	本人・家族の意向をもとに、毎月全職員でのモニタリングと、プラン見直し時(介護認定更新や介護度変更等)に総括し、サービス計画の変更有無を判断し新たなプランを作成している。家族や主治医・訪看と介護計画担当者との担当者会議を開催する等ターミナル期におけるプランの作成も行っており、具体的且つ詳細なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に個々日々の状況を記録し、それを読むことで皆が理解でき、情報を共有して介護計画に繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人または家族が面会を希望される際、一緒に食事を摂ったりして過ごせるよう、その時の状況に応じて柔軟な対応をするように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、社会福祉協議会・民生員さんや区長さんなどと意見交換を行い、さまざまな情報提供をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医を選び、定期的な往診と定期受診等支援している。	入居前からのかかりつけ医の継続や往診がある協力医への変更等様々に支援している。受診は家族対応としているが、介助が必要な場合や状態変化時は職員が同行し、情報の提供や、受診結果を共有している。協力医療機関からの毎月の定期往診や状態変化時の相談等強固な連携は家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携を取り、日々の健康管理をホーム内看護師と相談しながら支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療に専念して頂けるよう、また不安がられないよう定期的に面会へ行っている。早期退院できるように病院関係者と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて説明を行い、家族の意向を聞き、事前指定書に記入してもらっている。	重度化時(看取り)の指針に沿った説明や同意書を交わし、事前指定書で家族の意向を確認すると共に段階に応じ主治医を交え話し合っている。医療機関や訪問看護との連携及び緊急時の連絡体制の確立し、介護技術向上に向けた研修により、職員のケア統一や不安の解消とし、家族の希望である「他の施設よりホームで」により、重度化・終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で行ってはいるが、皆が実践力を身につけていないのが現状である。緊急連絡網ですぐに連絡できるようにはしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年消防・避難訓練を実施している。消防署の方・消防団・行政関係・さらにご近隣の方々のご協力のもとに行っている。災害の時は地元の区長さんへ連絡すれば、町内の方が駆けつけてくださるようになっている。	スプリンクラーや自動通報装置を設置し、年2回の避難訓練や半年毎の設備点検の他、セキュリティー会社との契約で非常時に備えている。防災については地域の協力が得られ、運営推進会議で協力体制についての活発な意見交換がされている。又、町の防災手引きや洪水時ハザードマップを参照し避難場所を確認する等自然災害へも意識を持って取り組み、ヘルメットや防災ズキン・懐中電灯等が常備されている。	火災に対してまずは火を出さない事への意識付けとして、例えば日誌等に火元チェックの項目を設けたり、有事に備え食料備蓄について検討頂きたい。今後も地域と一体となった訓練の開催に期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に目的に応じて本人・家族に了解を得て使用している。入居者の方に対して言葉使いなど相手を尊重しながら使用している。	接遇研修を実施し、一人ひとりに合わせた呼称や耳元での話しかけ等誇りを損ねない対応やプライバシーの確保に努め、重度化された方にも尊厳を重視し自然体で支援している。管理者は職員のメンタル面もケアに繋がると考えストレス軽減に努めており、排泄時の見守り等に日頃のケアが確認された。個人情報保護や守秘義務の遵守により情報漏洩防止に努め、ホーム便り等の写真使用については承諾を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いを把握するために答えやすい内容を会話の中に入れて込んで話を聞いている。また、表情や全身での反応を見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の動きや状態に合わせて一日の過ごし方を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでもらったり、鏡の前にヘアブラシを置いて、いつでも身だしなみがきれいできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際、入居者さんの意見を取り入れている。入居者さんと一緒に食材の買い物や食事の下準備・食器洗い・お盆拭きなどの手伝いもされている。	献立を入居者に選択してもらったり今日のメニューをボードに掲載する事で食への楽しみとなり、対面式の台所からの匂いは五感を刺激し食進意欲を引き出している。バランスの取れた食事や、ホームの農園で収穫したり近隣から頂いた野菜は旬の味わいとなり、入居者は交替で下ごしらえに参加し、職員も一緒に食事を摂り和やかな食事時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせて量や切り方・大きさを考えて、1回/月体重管理を行い、それを確認しながら行っている。また、定期的な水分補給を行い、補水液の使用で電解質のバランスにも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っている。義歯の方はその都度はずして洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握して失敗に繋がらないように時間を見て、その人に合った時間にトイレ誘導を行っている。	職員は見守りや必要時の介助でさりげなく対応し、様子を察しながらトイレへ誘導する等自立に向け支援している。夜間時は家族の希望や転倒の危険性から排泄用品を検討し安眠対策としたり、ポータブル使用については洗浄消毒で清潔を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人排便チェックを行い、できるだけ自然排便を促すため、食べ物の工夫や水分補給・腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望があればできるだけそれに応じているが、夜間の入浴は行っていない。	一日置きを目途にした入浴支援は、体調に合わせ、冬場の寒さ対策を講じ、個浴でのゆっくりした時間を作っている。二人介助も浴室からのチャイムで必要な部分を手伝う等職員のケア力を活かし、臥床の方にもシャワー浴や清拭で清潔保持に努めている。又、ゆずやしょうぶ湯等を楽しんだり、バラ湯で気分を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に応じて自室やソファにて休息されている。夜間不眠の場合は不安なく安心して眠れるよう、しばらく傍にいたり、話を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム内の看護師が責任を持って確認および管理している。薬の目的・副作用は全職員が理解できるように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や趣味を活かし、畑の野菜作り・収穫など、今までの経験を活かし、楽しみを見出して支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩へ出掛け、近所の方と会話をしたり、また、車で買い物へ出掛けたりする。桜の花見の時は家族の方と一緒に外でお弁当を食べたりしている。	日常の散歩や、気候や体調に合わせた農園の手入れ、散歩の途中でバラを見物したりと車椅子の方も一緒に出かけている。又、家族を招いての花見や季節毎にはコスモスやツツジ等の花見物に出かけたり、動物園等計画した外出も支援している。家族と一緒にの外出や外食等を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人の方は自分でお金の管理をしておられるが、他の方は家族の方より金銭をお預かりして職員が管理している。外出した時などは本人が使えるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より連絡を取りたいと希望があれば応じている。暑中見舞いや年賀状には書ける方は一筆書き添えられている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を、居間には入居者さん手作りの季節感ある貼り絵などを飾っている。日付も解かりやすいように貼っている。	ゆとりのあるホーム内はADLに応じたレイアウトや、畳の間でお風呂上りに寛いだりと入居者に優しい環境となっている。玄関や至る所に活けられた花や季節の飾り・入居者作品等で和やかな空間を醸し出している。自然豊かな環境の中、年数を重ねても掃除が行届き、温湿度管理で快適に保たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり過ごしたり、思い思いの場所へ自由に行かれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを置いたり、写真を貼ったり、他の方に気兼ねなく過ごしたり、本人が居心地良く過ごせるよう努めている。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みをお願いし、自宅に飾っていたジグソーパズルや思い出の写真等持ち込まれている。ベッドやタンスの位置も本人の心身の状況によって工夫し、転倒予防に畳を入れ布団敷きの部屋等入居者目線での居室である。各居室に掛けられたボードに家族やホームでの写真等を飾り、居心地良く過ごす工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできること・わかることをしっかり把握して見守りを大事にしている。居室・浴室・トイレ等名前を表示してわかりやすく安全に努めて、自立した生活が送れるよう工夫している。		